

平成 2 4 年度

**弘前市アクションプラン  
第三者評価報告書**

平成 2 4 年 1 1 月

弘前市市民評価会議

## 目 次

1	アクションプランの第三者評価について .....	1
(1)	目的 .....	1
(2)	評価者 .....	1
(3)	評価対象 .....	2
(4)	実施時期・回数等 .....	2
(5)	実施方法 .....	3
2	評価結果 .....	4
(1)	総括 .....	4
(2)	約束・個別施策別評価内容 .....	9
約束 1	.....	9
約束 2－(1)	.....	1 2
約束 2－(2)	.....	1 6
約束 2－(3)	.....	1 9
約束 3	.....	2 2
約束 4－(1)	.....	2 6
約束 4－(2)	.....	3 0
約束 5	.....	3 5
約束 6	.....	3 9
約束 7	.....	4 3
3	市民評価を終えて .....	4 7
〔資料〕		
	弘前市市民評価会議設置要綱 .....	4 8
	弘前市市民評価会議委員名簿 .....	5 0

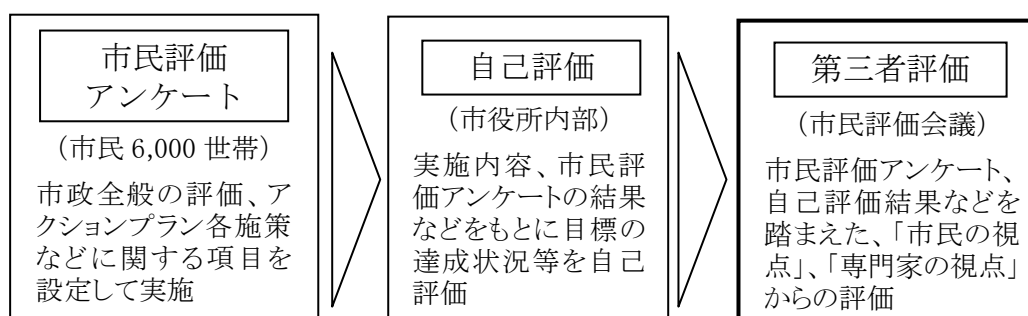
## 1 アクションプランの第三者評価について

### (1) 目 的

弘前市アクションプラン（以下「アクションプラン」という。）は、平成22年4月の葛西憲之市長の就任を受けて、同年10月に弘前市総合計画の実行計画として策定したもので、アクションプランを着実に推進し、各約束のめざす姿の実現を図るために、PDCAサイクル（[P：計画]、[D：実行]、[C：評価]、[A：改善]）によるマネジメントシステムを確立し、市民と協働で着実な進行管理を行っている。

弘前市市民評価会議（以下「市民評価会議」という。）は、市民評価アンケートの結果等を踏まえた市役所における自己評価を参考に、“市民の実感”と“専門家の視点”から第三者評価を実施するもので、評価結果及び意見・提言等をまとめ、アクションプランの改善につなげようとするものである。

#### <アクションプラン評価体系>



### (2) 評価者

弘前市市民評価会議委員 8名

役職	氏名	所属機関等
委員長	村松 恵二	弘前大学人文学部教授
副委員長	清藤 崇	弘前商工会議所青年部会長
委員	サワダ ハンナ・ジョイ	弘前大学国際交流センター准教授
委員	田村 えり子	NPO 北のまほろばグリーン・ツーリズム支援ネットワーク理事長
委員	林崎 孝人	相馬村農業協同組合青年部長
委員	清野 眞由美	NPO 弘前子どもコミュニティ・ピーぷる代表理事
委員	西澤 肇	公募委員
委員	竹内 博之	公募委員

### (3) 評価対象

アクションプラン2010に基づく、平成23年度の「約束部分」、及び、「約束を実現するための個別施策」の一部を評価の対象とした。

#### ① 7つの約束

約束1	市民主権システムを実現します
約束2－(1)	ひろさき農業・産業おこしに取り組みます【農業振興】
約束2－(2)	ひろさき農業・産業おこしに取り組みます【観光振興】
約束2－(3)	ひろさき農業・産業おこしに取り組みます【商工業振興】
約束3	魅力あるまちづくりを進めます
約束4－(1)	子育てするなら弘前で、を目指します【子育て】
約束4－(2)	子育てするなら弘前で、を目指します【人づくり】
約束5	命と暮らしを守ります
約束6	津軽地域の中核都市として、近隣市町村との連携強化を図ります
約束7	市職員のパワーを引き出し、市役所の仕事力を高めます

#### ② 個別施策

約束毎に2～3の個別施策を評価対象として選定した。

### (4) 実施時期・回数等

平成24年7月6日～10月12日の間に、全5回の日程で実施した。

月日	市民評価会議	内 容
7月6日	第1回会議	・会議の運営方法について ・評価の実施方法について ・約束6及び個別施策の評価について
8月10日	第2回会議	・約束1及び個別施策の評価について ・約束2－(1) 及び個別施策の評価について ・約束2－(2) 及び個別施策の評価について
8月30日	第3回会議	・約束2－(3) 及び個別施策の評価について ・約束3及び個別施策の評価について ・約束7及び個別施策の評価について
9月27日	第4回会議	・約束4－(2) 及び個別施策の評価について ・約束5及び個別施策の評価について ・約束4－(1) 及び個別施策の評価について
10月12日	第5回会議	・第三者評価報告書(素案)について

## (5) 実施方法

### ① 約束部分

- i 主管部長から自己評価概要の内容説明
- ii 質疑応答
- iii 委員全体での評価の集約(一本化)

### ② 個別施策(各約束につき2～3施策)

- i 主管課長から自己評価概要の内容説明
- ii 質疑応答
- iii 委員全体での評価の集約(一本化)

## 2 評価結果

### (1) 総括

平成24年度は、5回の会議を開催して、市の自己評価内容の妥当性等に関する評価、及び今後の施策展開に向けた意見集約等を行った。

その結果は評価結果一覧のとおりであるが、評価結果の全体概要と、各分野に共通する事項や特に重要な事項等について以下に記載する。

なお、約束・個別施策毎の評価結果の詳細については、9ページ以降をご覧ください。

#### 【達成状況・進捗状況の評価について】

各約束の「めざす姿の達成状況」については、本会議と市との見解の一部に差異がみられたものの、市による自己評価の内容は概ね妥当であると判断された。

一方、新たに評価対象とした「個別施策の達成状況」については、今年度は27施策の評価を実施したが、達成状況の評価ができないものを除き、市による自己評価内容は妥当であるという結論を得た。

個別施策の大部分は工程表どおり取り組まれているが、一部の進捗に遅れが見られることから、今後、その遅れを挽回できるよう、所要の改善を加えながら的確な進捗管理を行っていくことを求めたい。

#### 【遅れている要因の分析等について】

全体的に見て、市の施策展開は順調に進んでいるといえるものの、達成状況が「遅れている」ものも多いことから、その要因等を的確に把握・分析し、より積極的に取り組んでいく必要がある。

特に、一部の約束における「めざす姿の達成状況が遅れている要因」に関しては、より深く具体的な要因分析が必要と認められたことから、ごく一般的な要因の記載に留まらず、担当部局としての詳細な原因分析が必要である。

#### 【目標の設定について】

今回の評価においては、前回「判断できない」とされたものの多くについて、新たに達成率の評価結果が示された。

しかしながら、「数値が公表されていない」等の理由により、今年度の評価時点にお

いても判断できなかったものも見受けられた。PDCAサイクルにおいて、評価(C)を行うべき時期に評価できないということは、評価に続く改善(A)を的確に実施できなくなることにつながりかねない。

したがって、少なくとも、来年度の評価時点においても「判断できない」ことが明らかであるものについては、目標の設定について再考を求めたい。

なお、目標の設定にあたっては、目標数値の設定が高すぎる例が見受けられたことから、的確な数値設定がなされるよう留意されたい。

### 【目標への成果指標の導入について】

一部の個別施策において、目標数値を達成していることから達成率が「A」であると評価されているものであっても、その取り組みの結果が、実際に成果あるいは効果として現れているか判断し難いものがあった。

達成状況については、“どれだけ行ったか”ということよりも、“どれだけ成果を得たか”という視点から評価する方が、より望ましいと考える。

よって、今後は成果指標の設定を基本とし、やむを得ず成果指標を設定できない場合にのみ、代替指標として活動量指標を使用するべきである。

### 【より適切な自己評価の実施について】

市による自己評価の中には、厳し過ぎる評価との印象をもった事例がいくつか見受けられた。もちろん、都合の良い自己評価は、第三者評価を行う立場からは受け入れ難い。

しかしながら、厳格に評価を行うことが必要とされる一方、厳しい評価が必ずしも正しい評価であるとは限らない。

必要とされるのは、あくまでも正確で適切な自己評価である。今後の自己評価に当たっては、自己評価作業の精度を高め、より適切な評価が行われることを望む。

評価結果一覧【7つの約束】

約束	第三者評価 【自己評価の妥当性】	自己評価
約束1 市民主権システムを実現します	重要な事業が遅れており、『おおむね順調』であるとは評価し難い。	おおむね順調に推移している
約束2－(1) ひろさき農業・産業おこしに取り組みます【農業振興】	指標の達成状況から判断すると、市の自己評価はやむを得ないが、東日本大震災など不測の事態の影響を受けたことについて、ある程度考慮して評価すべき。	遅れている
約束2－(2) ひろさき農業・産業おこしに取り組みます【観光振興】	計画どおり順調に進捗していると言えるが、達成状況を示す指標の数値が未取得のものが多いため、評価会議としての判断は不可能。	観光客の落ち込みを大きく緩和できた
約束2－(3) ひろさき農業・産業おこしに取り組みます【商工業振興】	市の自己評価は妥当。 ただし、遅れている要因については、より具体的な分析を踏まえた担当部局としての見解を示すべき。	遅れている
約束3 魅力あるまちづくりを進めます	市の自己評価は妥当。	遅れている
約束4－(1) 子育てするなら弘前で、を目指します【子育て】	市の自己評価は妥当。	おおむね順調に推移している
約束4－(2) 子育てするなら弘前で、を目指します【人づくり】	市の自己評価は妥当。	やや遅れている
約束5 命と暮らしを守ります	市の自己評価は妥当。	遅れている
約束6 津軽地域の中核都市として、近隣市町村との連携強化を図ります	市の自己評価は妥当。	十分な成果が得られていない
約束7 市職員のパワーを引き出し、市役所の仕事力を高めます	市の自己評価は厳しく否定的なものであり、正確な評価とは言えない。	十分な成果は得られていない



評価結果一覧【個別施策】

個別施策	第三者評価 【自己評価の妥当性】	自己評価	
		進捗率	達成率
1-2 市民参加型まちづくり1%システムを導入	妥当	A	C
1-3 市民評価アンケートの定期的な実施	妥当	A	A
2-(1)-6 りんご海外輸出の促進	妥当	A	C
2-(1)-8 後継者育成を全力で支援、農業後継者配偶者探しの支援	妥当	B	B
2-(1)-10 農産品の地域ブランド化の推進、弘前ブランド認証制度の導入	妥当	A	A
2-(2)-10 観光ホスピタリティ運動と観光資源市民研修の強化	妥当	A	B
2-(2)-11 弘前観光情報の一元化	妥当	C	C
2-(3)-1 産学官金の連携による“ひろさき産業振興会議”の設置	妥当	A	B
2-(3)-2 仕事おこしプロジェクトチームの設置による仕事づくり施策の積極的展開	妥当	A	A
2-(3)-3 “BUYひろさき”運動	妥当	A	B
3-5 岩木・相馬地区活性化事業の推進	妥当	A	B
3-6 ひろさき街中にぎわいリバイバルプラン策定	妥当	A	A
3-18 岩木川自然農法社会実験の実施	妥当	A	B
4-(1)-1 「子育てスマイル(住まいる)アップ補助金」の支給	妥当	A	—
4-(1)-2 休日や夜間・早朝など保育時間の弾力化と学童保育体制の充実	妥当	A	A
4-(1)-6 親力向上委員会の設置	妥当	A	A
4-(2)-4 海外の自治体との人事交流やホームステイによる弘前の国際人育成事業	妥当	A	A
4-(2)-6 「弘前マイスター」による出前授業	妥当	A	—
4-(2)-12 「目指せ日本一・世界一」弘前の才能育成アクションプログラム策定	妥当	C	C
5-2 高齢者の健康診断受診率向上と介護予防事業への参加促進	妥当	A	C
5-5 自殺予防など心の健康づくり・命の尊さ教育を実施	妥当	A	A

個別施策	第三者評価 【自己評価の妥当性】	自己評価	
		進捗率	達成率
6-1 定住自立圏構想の推進(中心市の宣言)	妥当	A	A
6-2 (再)北東北の中核都市として、民間企業や公的団体の弘前市への着実な立地を推進	妥当	A	C
6-3 市町村合併の効果の最大化と一体感の醸成を推進(合併効果促進事業)	妥当	A	B
7-1 民間からの中堅・幹部職員の採用(任期付きなど多様な形態で)	妥当	A	C
7-3 エリア担当制度の検討など職員の地域活動への参加促進	妥当	A	B
7-4 窓口改革運動の実施	妥当	A	B

※ 自己評価の解説

「進捗率」

進捗率は、事務事業が工程表どおりに実施されたかどうかを3段階で評価している。

＜評価区分＞

A:工程表どおり実施済み B:概ね工程表どおり C:工程表より遅れている

「達成率」

達成率は、アウトプットを主とした「目標・活動量指標」が達成されたかどうかを、3段階で評価している。

ただし、事業の実施前など評価できない段階の事業については、「－」としている。

＜評価区分＞

A:目標を達成済み B:順調に推移 C:遅れている －:判断できない

(2) 約束・個別施策別評価内容

## 約束 1 市民主権システムを実現します

めざす姿	市民と行政の情報共有・対話が促進され、市民が主体のまちづくりが進められています。
------	--

### I 約束部分の評価

評価結果	目玉事業であり注目指標でもある「市民参加型まちづくり1%システム」が目標に対して大きく遅れていることから、約束全体として『おおむね順調に推移している』とは言い難い。
附帯意見	—

個別意見	—
------	---

自己評価の内容																	
自己評価	市民参加型まちづくり1%システム支援事業数が目標を下回ったもの、各施策の取り組みに一定の成果が見られることから、めざす姿に向けては <u>おおむね順調に推移している</u> 。																
数値目標の達成度	<p>1. 数値目標の達成率(「—」を除く「○」の割合) 9/10 ※うち注目指標の達成率 2/3</p> <p>2. 各数値目標の達成状況一覧</p> <table> <tr> <th>指 標</th><th>達成率 (H23 目標)</th></tr> <tr> <td>① 市民と行政が同じ目的を持ちパートナーとしてまちづくりに取り組んでいると思う市民を増やします。</td><td>○</td></tr> <tr> <td>② 市政に意見が言える機会・場所・方法について満足している市民を増やします。</td><td>○</td></tr> <tr> <td>③ 市政情報の提供量や内容に満足している市民を増やします。</td><td>○</td></tr> <tr> <td>④ 町会や公民館、地区社協などの地域活動に参加している市民を増やします。</td><td>○</td></tr> <tr> <td>⑤ 公募枠のある審議会等の割合 50%を目指します。</td><td>○</td></tr> <tr> <td>⑥ 携帯サイトのアクセス数 200,000 件を目指します。</td><td>○</td></tr> <tr> <td>⑦ メールマガジン登録件数 1,900 件を目指します。</td><td>○</td></tr> </table>	指 標	達成率 (H23 目標)	① 市民と行政が同じ目的を持ちパートナーとしてまちづくりに取り組んでいると思う市民を増やします。	○	② 市政に意見が言える機会・場所・方法について満足している市民を増やします。	○	③ 市政情報の提供量や内容に満足している市民を増やします。	○	④ 町会や公民館、地区社協などの地域活動に参加している市民を増やします。	○	⑤ 公募枠のある審議会等の割合 50%を目指します。	○	⑥ 携帯サイトのアクセス数 200,000 件を目指します。	○	⑦ メールマガジン登録件数 1,900 件を目指します。	○
指 標	達成率 (H23 目標)																
① 市民と行政が同じ目的を持ちパートナーとしてまちづくりに取り組んでいると思う市民を増やします。	○																
② 市政に意見が言える機会・場所・方法について満足している市民を増やします。	○																
③ 市政情報の提供量や内容に満足している市民を増やします。	○																
④ 町会や公民館、地区社協などの地域活動に参加している市民を増やします。	○																
⑤ 公募枠のある審議会等の割合 50%を目指します。	○																
⑥ 携帯サイトのアクセス数 200,000 件を目指します。	○																
⑦ メールマガジン登録件数 1,900 件を目指します。	○																

	<table><tr><td>⑧</td><td>「わたしのアイデアポスト事業」の投書件数 140 件を目指します。</td><td>○</td></tr><tr><td>⑨</td><td>市民参加型まちづくり1%システム支援事業数 100 事業を目指します。</td><td>×</td></tr><tr><td>⑩</td><td>市政懇談会の参加者数(主催者:弘前市町会連合会) 1,000 人を目指します。</td><td>○</td></tr></table>	⑧	「わたしのアイデアポスト事業」の投書件数 140 件を目指します。	○	⑨	市民参加型まちづくり1%システム支援事業数 100 事業を目指します。	×	⑩	市政懇談会の参加者数(主催者:弘前市町会連合会) 1,000 人を目指します。	○															
⑧	「わたしのアイデアポスト事業」の投書件数 140 件を目指します。	○																							
⑨	市民参加型まちづくり1%システム支援事業数 100 事業を目指します。	×																							
⑩	市政懇談会の参加者数(主催者:弘前市町会連合会) 1,000 人を目指します。	○																							
	<p>〈数値目標の達成率の区分〉</p> <p>○:目標を達成済み    ×:目標を達成できない    ー:判断できない</p>																								
個別施策の実施状況	<p>○進捗率</p> <p>A又はB評価の施策数(「ー」は除く)    7／7</p> <table><tr><td></td><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>ー</td><td>合計</td></tr><tr><td>個別施策数</td><td>7</td><td>0</td><td></td><td></td><td>7</td></tr></table> <p>〈進捗率の評価区分〉</p> <p>A:工程表どおり実施済み    B:概ね工程表どおり    C:工程表より遅れている    ー:未着手</p> <p>○達成率</p> <p>A又はB評価の施策数(「ー」は除く)    5／6</p> <table><tr><td></td><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>ー</td><td>合計</td></tr><tr><td>個別施策数</td><td>5</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>7</td></tr></table> <p>〈達成率の評価区分〉</p> <p>A:目標を達成済み    B:順調に推移    C:遅れている    ー:判断できない</p>		A	B	C	ー	合計	個別施策数	7	0			7		A	B	C	ー	合計	個別施策数	5	0	1	1	7
	A	B	C	ー	合計																				
個別施策数	7	0			7																				
	A	B	C	ー	合計																				
個別施策数	5	0	1	1	7																				

## Ⅱ 個別施策の評価

1-2 市民参加型まちづくり1%システムを導入	
評価結果	市の自己評価は妥当であると判断する。 施策の方向性は大いに評価するところであり、今後も多くの市民に活用されるように、この制度を前進させるべきである。
附帯意見	・申請事業の審査プロセスを含めて改善を図るべき点が認められることから、より良い制度になるようシステム全体のブラッシュアップについて一層の努力を期待する。

個別意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例えば専門分野ごとに分科会を設定するなどして、質の高い審査を確保すると共に、審査員の審査能力の向上を求めたい。</li> <li>・パターン化された申請案件については審査を省略するなど、審査方法を工夫すべき。</li> <li>・沢山の申請があつてこそ、この制度の真価が問われる。まだまだこの制度を知らない市民も多いことから、この制度が広く知れ渡るよう周知に努めるべき。</li> </ul>
------	--

■ 自己評価の内容		
個別施策名	進捗率	達成率
1-2 市民参加型まちづくり1%システムを導入	A	C

1-3	市民評価アンケートの定期的な実施
-----	------------------

評価結果	<p>市の自己評価は妥当であると判断する。</p> <p>市民評価アンケートの取り組みは評価されるものであるため、今後も継続するべき。</p>
附帯意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の意向がより正確に反映させるような方法でアンケートが実施されることを期待する。</li> </ul>

個別意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・回収率が低いと誤差率が大きくなる恐れがあることから、郵送による調査ではなく、サンプリングを正確に行って回収率を高めるような方法も検討すべき。</li> </ul>
------	---

■ 自己評価の内容		
個別施策名	進捗率	達成率
1-3 市民評価アンケートの定期的な実施	A	A

## 約束２－（１）

### ひろさき農業・産業おこしに取り組めます【農業振興】

めざす姿	安全・安心な農産物の生産が拡大し、農業所得が向上します。
------	------------------------------

#### I 約束部分の評価

評価結果	<p>厳しい自己評価である。</p> <p>指標の達成状況から判断すると、確かに「遅れている」との自己評価はやむを得ないものと考えられるが、より正確な評価を行うためには、不測の事態である東日本大震災の影響も一定程度考慮すべきであったと判断する。</p>
附帯意見	—

個別意見	—
------	---

自己評価の内容															
自己評価	各個別施策が本格稼働に移行しているものの、実績が上がっていないものも多く、目指す姿に向けては <u>遅れている</u> と考える。														
数値目標の達成度	<p>1. 数値目標の達成率（「－」を除く「○」の割合） 3/8 ※うち注目指標の達成率 0/1</p> <p>2. 各数値目標の達成状況一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指 標</th><th>達成率 (H23 目標)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 農業産出額 400 億円を目指します。</td><td>—</td></tr> <tr> <td>② 農業生産法人数(累計) 36 団体を目指します。</td><td>○</td></tr> <tr> <td>③ 集落営農組織数(累計) 35 組織を目指します。</td><td>○</td></tr> <tr> <td>④ 新規就農者数(累計) 122 人を目指します。</td><td>×</td></tr> <tr> <td>⑤ 果樹共済加入率 50.0%を目指します。</td><td>×</td></tr> <tr> <td>⑥ わい化栽培率 20.0%を目指します。</td><td>×</td></tr> </tbody> </table>	指 標	達成率 (H23 目標)	① 農業産出額 400 億円を目指します。	—	② 農業生産法人数(累計) 36 団体を目指します。	○	③ 集落営農組織数(累計) 35 組織を目指します。	○	④ 新規就農者数(累計) 122 人を目指します。	×	⑤ 果樹共済加入率 50.0%を目指します。	×	⑥ わい化栽培率 20.0%を目指します。	×
指 標	達成率 (H23 目標)														
① 農業産出額 400 億円を目指します。	—														
② 農業生産法人数(累計) 36 団体を目指します。	○														
③ 集落営農組織数(累計) 35 組織を目指します。	○														
④ 新規就農者数(累計) 122 人を目指します。	×														
⑤ 果樹共済加入率 50.0%を目指します。	×														
⑥ わい化栽培率 20.0%を目指します。	×														

	⑦ りんご海外輸出量 30,000トン(青森県産)を目指します。	×																								
	⑧ 主要農産物直売所の利用者数 1,325,000 人を目指します。	×																								
	⑨ 主要農産物直売所の販売金額 1,697,000 千円を目指します。	○																								
	＜数値目標の達成率の区分＞ ○:目標を達成済み ×:目標を達成できない ー:判断できない																									
個別施策の実施状況	○進捗率 A又はB評価の施策数(「ー」は除く) 14／14 <table><tr><td></td><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>ー</td><td>合計</td></tr><tr><td>個別施策数</td><td>11</td><td>3</td><td>0</td><td>0</td><td>14</td></tr></table> ＜進捗率の評価区分＞ A:工程表どおり実施済み B:概ね工程表どおり C:工程表より遅れている ー:未着手  ○達成率 A又はB評価の施策数(「ー」は除く) 11／13 <table><tr><td></td><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>ー</td><td>合計</td></tr><tr><td>個別施策数</td><td>3</td><td>8</td><td>2</td><td>1</td><td>14</td></tr></table> ＜達成率の評価区分＞ A:目標を達成済み B:順調に推移 C:遅れている ー:判断できない			A	B	C	ー	合計	個別施策数	11	3	0	0	14		A	B	C	ー	合計	個別施策数	3	8	2	1	14
	A	B	C	ー	合計																					
個別施策数	11	3	0	0	14																					
	A	B	C	ー	合計																					
個別施策数	3	8	2	1	14																					

## Ⅱ 個別施策の評価

2-(1)-6	りんご海外輸出の促進
評価結果	市の自己評価は妥当であると判断する。
附帯意見	・りんごの輸出力だけで達成率を測っているが、経済情勢やりんごの生産状況(生産量、単価等)など、その時々条件次第で変わり得るものであることから、より安定的に評価を行うことができる指標の設定について検討すべき。
個別意見	ー

■ 自己評価の内容			
個別施策名		進捗率	達成率
2-(1)-6 りんごの海外輸出の促進		A	C
	(1)りんご輸出対策調査事業	A	C
	(2)りんご輸出促進事業	A	C

2-(1)-8	後継者育成を全力で支援、農業後継者配偶者探しの支援
---------	---------------------------

評価結果	市の自己評価は妥当であると判断する。
附帯意見	・農業後継者の配偶者探しの支援事業について、「独身農業後継者と“独身女性”との出会いの場」との表現で記載されており、農業後継者が男性である前提で施策が組み立てられている印象を受ける。表現方法を修正すべき。

個別意見	・農業後継者を多く生み出すことが地域を元気にする鍵である。女性も農業後継者にしていくために、市が農家に対して提案していくことも必要である。
------	---

■ 自己評価の内容			
個別施策名		進捗率	達成率
2-(1)-8 後継者育成を全力で支援、農業後継者配偶者探しの支援		B	B
	(1)(仮称)担い手育成総合行動計画策定	C	C
	(2)農業後継者りんご整枝せん定講習会兼競技会	A	A
	(3)弘前市青年交流会実行委員会事業費補助金	A	B
	(4)独身農業後継者婚活研修会	A	B

2-(1)-10	農産品の地域ブランド化の推進、弘前ブランド認証制度の導入
----------	------------------------------

評価結果	市の自己評価は妥当であると判断する。 ただし、ブランドを評価するのは消費者であり、弘前の地域外の方々であるので、この点を踏まえた評価が必要。 今後の期待も込めて、更なる情報発信を期待する。
------	--



附帯意見	—
------	---

個別意見	・地域内では弘前の地域ブランドだと認識されているかもしれないが、一歩地域外へ出ると、弘前の農産品だという情報を見かけることはほとんどない。市の自己評価は甘いのではないか。
------	---

■ 自己評価の内容		
個別施策名	進捗率	達成率
2-(1)-10 農産品の地域ブランド化の推進、弘前ブランド認証制度の導入	A	A

## 約束２－（２）

### ひろさき農業・産業おこしに取り組めます【観光振興】

めざす姿	東北新幹線新青森駅開業や弘前城築城400年祭などを契機に、交流人口が増加することによって、観光関連産業が活性化し、雇用拡大が図られます。
------	--

#### I 約束部分の評価

評価結果	計画どおり順調に進捗していると言えるが、達成状況を示す指標の数値に未取得のものが多いため、評価会議としての判断は不可能。
附帯意見	—

個別意見	・市街地に観光客を誘導する仕組みづくりに取り組むべき。
------	-----------------------------

自己評価の内容													
自己評価	平成23年3月の東日本大震災の影響により県内各地域における観光客の入込数が大きく減少すると予測される中で、弘前城築城400年祭や青森デスティネーションキャンペーン等多方面にわたる積極的な事業展開とPR活動を実施して、東北新幹線全線開業による効果を可能な限り生かすよう努めた結果、 <u>観光客の落ち込みを大きく緩和できた</u> ものとする。												
数値目標の達成度	<p>1. 数値目標の達成率(「—」を除く「○」の割合) 0/1 ※うち注目指標の達成率 0/0</p> <p>2. 各数値目標の達成状況一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指 標</th><th>達成率 (H23 目標)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 観光客入込数 1,000 万人を目指します。(39.6%増)</td><td>—</td></tr> <tr> <td>② 宿泊者数 70 万人を目指します。(42%増)</td><td>—</td></tr> <tr> <td>③ 観光消費による経済波及効果額 530 億円を目指します。(30%増)</td><td>—</td></tr> <tr> <td>④ 外国人宿泊者数 8 千人を目指します。(85%増)</td><td>—</td></tr> <tr> <td>⑤ 県内外物産展売上額 3 億円を目指します。(29.3%増)</td><td>×</td></tr> </tbody> </table>	指 標	達成率 (H23 目標)	① 観光客入込数 1,000 万人を目指します。(39.6%増)	—	② 宿泊者数 70 万人を目指します。(42%増)	—	③ 観光消費による経済波及効果額 530 億円を目指します。(30%増)	—	④ 外国人宿泊者数 8 千人を目指します。(85%増)	—	⑤ 県内外物産展売上額 3 億円を目指します。(29.3%増)	×
指 標	達成率 (H23 目標)												
① 観光客入込数 1,000 万人を目指します。(39.6%増)	—												
② 宿泊者数 70 万人を目指します。(42%増)	—												
③ 観光消費による経済波及効果額 530 億円を目指します。(30%増)	—												
④ 外国人宿泊者数 8 千人を目指します。(85%増)	—												
⑤ 県内外物産展売上額 3 億円を目指します。(29.3%増)	×												

	<table><tr><td>⑥</td><td>ホテル旅館の地元食材調達率の向上を目指します。 H23 の基準値取得後に目標値を設定</td><td>—</td></tr><tr><td>⑦</td><td>観光振興による新規雇用を増やします。 H23 に設定手法を研究したうえで目標値を設定</td><td>—</td></tr></table> <p>&lt;数値目標の達成率の区分&gt; ○:目標を達成済み    ×:目標を達成できない    —:判断できない</p>	⑥	ホテル旅館の地元食材調達率の向上を目指します。 H23 の基準値取得後に目標値を設定	—	⑦	観光振興による新規雇用を増やします。 H23 に設定手法を研究したうえで目標値を設定	—																		
⑥	ホテル旅館の地元食材調達率の向上を目指します。 H23 の基準値取得後に目標値を設定	—																							
⑦	観光振興による新規雇用を増やします。 H23 に設定手法を研究したうえで目標値を設定	—																							
個別施策の実施状況	<p>○進捗率</p> <p>A又はB評価の施策数(「-」は除く)    11/12</p> <table><tr><td></td><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>—</td><td>合計</td></tr><tr><td>個別施策数</td><td>11</td><td>0</td><td>1</td><td>0</td><td>12</td></tr></table> <p>&lt;進捗率の評価区分&gt; A:工程表どおり実施済み    B:概ね工程表どおり    C:工程表より遅れている    —:未着手</p> <p>○達成率</p> <p>A又はB評価の施策数(「-」は除く)    7/9</p> <table><tr><td></td><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>—</td><td>合計</td></tr><tr><td>個別施策数</td><td>5</td><td>2</td><td>2</td><td>3</td><td>12</td></tr></table> <p>&lt;達成率の評価区分&gt; A:目標を達成済み    B:順調に推移    C:遅れている    —:判断できない</p>		A	B	C	—	合計	個別施策数	11	0	1	0	12		A	B	C	—	合計	個別施策数	5	2	2	3	12
	A	B	C	—	合計																				
個別施策数	11	0	1	0	12																				
	A	B	C	—	合計																				
個別施策数	5	2	2	3	12																				

## Ⅱ 個別施策の評価

2-(2)-10	観光ホスピタリティ運動と観光資源市民研修の強化		
評価結果	市の自己評価は妥当であると判断する。		
附帯意見	—		
個別意見	—		
■ 自己評価の内容			
個別施策名		進捗率	達成率
2-(2)-10 観光ホスピタリティ運動と観光資源市民研修の強化		A	B

2-(2)-11	弘前観光情報の一元化
----------	------------

評価結果	市の自己評価は妥当であると判断する。 施策の方向性は良いと考えられることから、一層の努力を期待する。
附帯意見	・市内の各要所に、外国語対応のできるスタッフをぜひ配置して欲しい。

個別意見	－
------	---

■ 自己評価の内容		
個別施策名	進捗率	達成率
2-(2)-11 弘前観光情報の一元化	C	C

## 約束２－（３）

### ひろさき農業・産業おこしに取り組みます【商工業振興】

めざす姿	商業・サービス業が活性化し、地域資源を活かした新商品開発や企業立地が促進され、雇用拡大が図られます。
------	--

#### I 約束部分の評価

評価結果	市の自己評価は妥当であると判断する。 ただし、遅れている要因については、自己評価で挙げられている東日本大震災、円高、人口減少等は一般的に理解できるものの、より具体的な担当部局としての要因分析が必要。
附帯意見	－

個別意見	・企業誘致に関して、固定資産税の免除等、誘致事業に対するインセンティブを検討すべき。
------	--

自己評価の内容							
自己評価	地域資源を活かした商品開発や創業などへの支援により、意欲的な取り組みは着実に増えてきているものの、産業の空洞化や国内経済の縮小が進む中で、企業の国内投資意欲は低く、企業誘致による雇用の拡大ができなかったことにより、注目指標の新規雇用者数及び誘致企業数で目標を達成することができなかったため、めざす姿に向けては <u>遅れている</u> と考える。						
数値目標の達成度	<div>1. 数値目標の達成率(「－」を除く「○」の割合)    3/6       ※うち注目指標の達成率 1/3</div> <div>2. 各数値目標の達成状況一覧</div> <table><tr><th>指 標</th><th>達成率 (H23 目標)</th></tr><tr><td>① 施策の取り組みによる新規雇用(累計) 350 人を目指します。     ○商工業振興による新規雇用 228 人     ○農林業振興による新規雇用 122 人     (※観光振興による新規雇用は、H23 に設定)</td><td>×</td></tr><tr><td>② 農商工連携対策支援事業所数(累計) 20 件を目指します。</td><td>○</td></tr></table>	指 標	達成率 (H23 目標)	① 施策の取り組みによる新規雇用(累計) 350 人を目指します。 ○商工業振興による新規雇用 228 人 ○農林業振興による新規雇用 122 人 (※観光振興による新規雇用は、H23 に設定)	×	② 農商工連携対策支援事業所数(累計) 20 件を目指します。	○
指 標	達成率 (H23 目標)						
① 施策の取り組みによる新規雇用(累計) 350 人を目指します。 ○商工業振興による新規雇用 228 人 ○農林業振興による新規雇用 122 人 (※観光振興による新規雇用は、H23 に設定)	×						
② 農商工連携対策支援事業所数(累計) 20 件を目指します。	○						

	<table><tr><td>③ 新商品・新技術開発支援事業所数(累計) 50 件を目指します。</td><td>○</td></tr><tr><td>④ 起業家支援事業所数(累計) 15 件を目指します。</td><td>○</td></tr><tr><td>⑤ 誘致企業数(累計) 5 社を目指します</td><td>×</td></tr><tr><td>⑥ 中心商店街空き店舗率 8.5%を目指します。</td><td>×</td></tr></table> <p>〈数値目標の達成率の区分〉 ○:目標を達成済み    ×:目標を達成できない    ー:判断できない</p>	③ 新商品・新技術開発支援事業所数(累計) 50 件を目指します。	○	④ 起業家支援事業所数(累計) 15 件を目指します。	○	⑤ 誘致企業数(累計) 5 社を目指します	×	⑥ 中心商店街空き店舗率 8.5%を目指します。	×																
③ 新商品・新技術開発支援事業所数(累計) 50 件を目指します。	○																								
④ 起業家支援事業所数(累計) 15 件を目指します。	○																								
⑤ 誘致企業数(累計) 5 社を目指します	×																								
⑥ 中心商店街空き店舗率 8.5%を目指します。	×																								
個別施策の実施状況	<p>○進捗率</p> <p>A又はB評価の施策数(「ー」は除く)    9／9</p> <table><tr><td></td><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>ー</td><td>合計</td></tr><tr><td>個別施策数</td><td>9</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>9</td></tr></table> <p>〈進捗率の評価区分〉 A:工程表どおり実施済み    B:概ね工程表どおり    C:工程表より遅れている    ー:未着手</p> <p>○達成率</p> <p>A又はB評価の施策数(「ー」は除く)    6／7</p> <table><tr><td></td><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>ー</td><td>合</td></tr><tr><td>個別施策数</td><td>3</td><td>3</td><td>1</td><td>2</td><td>9</td></tr></table> <p>〈達成率の評価区分〉 A:目標を達成済み    B:順調に推移    C:遅れている    ー:判断できない</p>		A	B	C	ー	合計	個別施策数	9	0	0	0	9		A	B	C	ー	合	個別施策数	3	3	1	2	9
	A	B	C	ー	合計																				
個別施策数	9	0	0	0	9																				
	A	B	C	ー	合																				
個別施策数	3	3	1	2	9																				

## Ⅱ 個別施策の評価

2-(3)-1	産学官金の連携による“ひろさき産業振興会議”の設置
---------	---------------------------

評価結果	市の自己評価は妥当であると判断する。
附帯意見	ー

個別意見	ー
------	---

■自己評価の内容		
個別施策名	進捗率	達成率

2-(3)-1 産学官金の連携による“ひろさき産業振興会議”の設置	A	B
-----------------------------------	---	---

## 2-(3)-2 仕事おこしプロジェクトチームの設置による仕事づくり施策の積極的展開

評価結果	基本的に目標を達成済みという自己評価であるので、これは妥当であると判断する。
附帯意見	—

個別意見	—
------	---

■ 自己評価の内容			
個別施策名		進捗率	達成率
2-(3)-2 仕事おこしプロジェクトチームの設置による仕事づくり施策の積極的展開		A	A
	(1)仕事おこし・雇用支援室設置	A	—
	(2)仕事おこし推進事業	A	A

## 2-(3)-3 “BUYひろさき”運動

評価結果	市の自己評価は妥当であると判断する。
附帯意見	・伝統工芸品の購入補助を受けた飲食店等に対しては、観光客等の来訪者への商品のアピールを義務付けるなどの強化が必要。次のセールスにつながらない限りは、非常に効果が限られた方法である。

個別意見	・“地元で作っているから地元のものを買いましょう”と訴えるだけでは、市民にとっては非常に漠然としている。地域の発展のためではなく、商品そのものの良さなど、別の視点でのアピールも必要。
------	---

■ 自己評価の内容			
個別施策名		進捗率	達成率
2-(3)-3 “BUYひろさき”運動		A	B

### 約束3 魅力あるまちづくりを進めます

めざす姿	地域資源・資産の効果的な活用によるまちづくりや住環境の整備を進め、低炭素・循環型の市民が暮らしやすい魅力あるまちになっています。
------	--

#### I 約束部分の評価

評価結果	市の自己評価が妥当であると判断する。
附帯意見	・一部指標については目標設定が高すぎるなどの分析がなされていることから、計画を策定する際には適切な目標数値が設定されるよう配慮することが必要。

個別意見	・公共交通の対極にあるのは自家用車であり、自家用車の利用の仕方に言及しない限り公共交通の利用者は減少する一方であるので、自家用車の利用に関する取り組みなども検討すべき。
------	--

自己評価の内容													
自己評価	弘前が住みよいと思う市民の割合などは目標を達成しているが、一方では、中心市街地歩行者・自転車通行量など、目標を達成することができなかったものもあるため、めざす姿に向けては <u>遅れている</u> と考える。												
数値目標の達成度	<p>1. 数値目標の達成率(「－」を除く「○」の割合) 4/9 ※うち注目指標の達成率 2/2</p> <p>2. 各数値目標の達成状況一覧</p> <table> <tr> <th>指 標</th><th>達成率 (H23 目標)</th></tr> <tr> <td>① 弘前が住みよいと思う市民を増やします。</td><td>○</td></tr> <tr> <td>② 弘前の景観に魅力を感じる市民を増やします。 H23 の基準値取得後に目標値を設定</td><td>－</td></tr> <tr> <td>③ 中心市街地活性化基本計画に掲げる目標指標 中心市街地歩行者・自転車通行量(平日・休日の平均) 25,000</td><td>×</td></tr> <tr> <td>中心商店街空き店舗率 8.5%を目指します。</td><td>×</td></tr> <tr> <td>④ 重要伝統的建造物群保存地区(仲町地区)の消流雪溝整備を進めます。 整備率 76.9%</td><td>×</td></tr> </table>	指 標	達成率 (H23 目標)	① 弘前が住みよいと思う市民を増やします。	○	② 弘前の景観に魅力を感じる市民を増やします。 H23 の基準値取得後に目標値を設定	－	③ 中心市街地活性化基本計画に掲げる目標指標 中心市街地歩行者・自転車通行量(平日・休日の平均) 25,000	×	中心商店街空き店舗率 8.5%を目指します。	×	④ 重要伝統的建造物群保存地区(仲町地区)の消流雪溝整備を進めます。 整備率 76.9%	×
指 標	達成率 (H23 目標)												
① 弘前が住みよいと思う市民を増やします。	○												
② 弘前の景観に魅力を感じる市民を増やします。 H23 の基準値取得後に目標値を設定	－												
③ 中心市街地活性化基本計画に掲げる目標指標 中心市街地歩行者・自転車通行量(平日・休日の平均) 25,000	×												
中心商店街空き店舗率 8.5%を目指します。	×												
④ 重要伝統的建造物群保存地区(仲町地区)の消流雪溝整備を進めます。 整備率 76.9%	×												



	<table><tr><td>整備延長 1,255m</td><td>×</td></tr><tr><td>⑤ 安全・安心な生活環境だと思ふ市民を増やします。 H23の基準値取得後に目標値を設定</td><td>—</td></tr><tr><td>⑥ 弘南バス(弘前市関係路線)及び弘南鉄道の利用者数 5,500,000人を維持します。</td><td>×</td></tr><tr><td>⑦ リサイクル率 14.9%を目指します。</td><td>○</td></tr><tr><td>⑧ 新エネルギーを導入した公共施設数 3施設を目指します。</td><td>○</td></tr><tr><td>⑨ 省エネルギーを導入した公共施設数 インハウスエスコ事業実施 6施設を目指します。</td><td>○</td></tr><tr><td>エスコ事業実施 1施設を目指します。</td><td>—</td></tr></table> <p>＜数値目標の達成率の区分＞ ○:目標を達成済み ×:目標を達成できない —:判断できない</p>	整備延長 1,255m	×	⑤ 安全・安心な生活環境だと思ふ市民を増やします。 H23の基準値取得後に目標値を設定	—	⑥ 弘南バス(弘前市関係路線)及び弘南鉄道の利用者数 5,500,000人を維持します。	×	⑦ リサイクル率 14.9%を目指します。	○	⑧ 新エネルギーを導入した公共施設数 3施設を目指します。	○	⑨ 省エネルギーを導入した公共施設数 インハウスエスコ事業実施 6施設を目指します。	○	エスコ事業実施 1施設を目指します。	—										
整備延長 1,255m	×																								
⑤ 安全・安心な生活環境だと思ふ市民を増やします。 H23の基準値取得後に目標値を設定	—																								
⑥ 弘南バス(弘前市関係路線)及び弘南鉄道の利用者数 5,500,000人を維持します。	×																								
⑦ リサイクル率 14.9%を目指します。	○																								
⑧ 新エネルギーを導入した公共施設数 3施設を目指します。	○																								
⑨ 省エネルギーを導入した公共施設数 インハウスエスコ事業実施 6施設を目指します。	○																								
エスコ事業実施 1施設を目指します。	—																								
個別施策の実施状況	<p>○進捗率</p> <p>A又はB評価の施策数(「-」は除く) 20/21</p> <table><tr><td></td><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>—</td><td>合計</td></tr><tr><td>個別施策数</td><td>17</td><td>3</td><td>1</td><td>0</td><td>21</td></tr></table> <p>＜進捗率の評価区分＞ A:工程表どおり実施済み B:概ね工程表どおり C:工程表より遅れている —:未着手</p> <p>○達成率</p> <p>A又はB評価の施策数(「-」は除く) 17/19</p> <table><tr><td></td><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>—</td><td>合計</td></tr><tr><td>個別施策数</td><td>10</td><td>7</td><td>2</td><td>2</td><td>21</td></tr></table> <p>＜達成率の評価区分＞ A:目標を達成済み B:順調に推移 C:遅れている —:判断できない</p>		A	B	C	—	合計	個別施策数	17	3	1	0	21		A	B	C	—	合計	個別施策数	10	7	2	2	21
	A	B	C	—	合計																				
個別施策数	17	3	1	0	21																				
	A	B	C	—	合計																				
個別施策数	10	7	2	2	21																				

## Ⅱ 個別施策の評価

3-5	岩木・相馬地区活性化事業の推進
評価結果	市の自己評価は妥当であると判断する。
附帯意見	—

個別意見	—
------	---

■ 自己評価の内容			
個別施策名		進捗率	達成率
3-5	岩木・相馬地区活性化事業の推進	A	B
	(1)地域活性化ソフト事業	A	A
	(2)岩木・相馬地区活性化推進事業	A	A
	(3)相馬地区過疎計画推進事業	A	B

3-6	ひろさき街中にぎわいリバイバルプラン策定
-----	----------------------

評価結果	<p>市の自己評価は妥当であると判断する。</p> <p>ただし、取り組んだ結果、どれだけの成果をあげられたかという観点からの評価が必要であるので、賑わいを具体的に数値で測ることができる指標を検討すべき。</p>
附帯意見	—

個別意見	<p>・現在、エネルギー問題など、我が国が置かれている状況を踏まえれば、イルミネーションの事業は不適切と考えるので、別の手法を検討すべき。</p> <p>・本当のにぎわい、すなわち豊かさということについて、もう少し深く考えるべき。</p>
------	---

■ 自己評価の内容			
個別施策名		進捗率	達成率
3-6	ひろさき街中にぎわいリバイバルプラン策定	A	A

3-18	岩木川自然農法(無農薬・減農薬によるブランド化、循環型農業)社会実験の実施
------	---------------------------------------

評価結果	<p>市の自己評価は妥当であると判断する。</p> <p>ただし、例えば学校給食に無農薬農産物を用いるなどの方策をとって、目標数値を高めていく努力を強く求める。</p>
------	--

附帯意見	・弘前は、県外他地域に比べて、もともと農薬の使用量が少ないという見方もできると思われるので、こうした観点についても農産物販売に活かすべき。
------	---

個別意見	—
------	---

■ 自己評価の内容		
個別施策名	進捗率	達成率
3-18 岩木川自然農法社会実験の実施	A	B

## 約束４－（１）

### 子育てするなら弘前で、を目指します【子育て】

めざす姿	子育てに適した環境が整って、安心して子どもを産み、元気に育てることができ、子ども達の笑顔があふれています。
------	---

#### I 約束部分の評価

評価結果	市の自己評価は妥当であると判断する。
附帯意見	<p>・ただ出生率1.30を目指すということ掲げるのではなく、弘前の女性が仕事をしながら子育てをするためにどういう環境が必要か、沢山のハードルをどうクリアしていくかということを示すべき。</p> <p>・「合計特殊出生率」は5年に一度のみの公表数値であるため、今年と同様、来年度も達成状況を評価できない。アクションプランの次回改訂のタイミングで別の目標を設定すべき。</p>

個別意見	<p>・合計特殊出生率を目標数値に掲げ、かつ注目指標に設定しているが、子供を産むか産まないかは、最終的には個人の問題であるので、その部分に配慮した記載が必要。</p> <p>・この約束は、子供が生まれてからの施策が並べられているが、本来であれば、子どもを産む段階までの施策も必要。本当に出生率を高めていこうとするならば、女性は誰でもすぐに子どもが産めるという前提ではなく、不妊治療の補助なども施策に組み入れながら取り組みを充実させる必要がある。</p>
------	--

自己評価の内容	
自己評価	子育てに適した環境は高まる傾向が見られ、めざす姿に向けては <u>おおむね順調に推移している</u> と考える。
数値目標の達成度	<p>1. 数値目標の達成率（「－」を除く「○」の割合） 3/3</p> <p>※うち注目指標の達成率 1/1</p>

2. 各数値目標の達成状況一覧

指 標	達成率 (H23 目標)
① 合計特殊出生率 1.30 を目指します。	—
② 保育所待機児童数 0 人を維持します。 ※産休・育休明け、年度途中就労による入所基準を改善します。	○
③ 放課後待機児童数 0 人を目指します。	○
④ 放課後児童健全育成事業に満足している市民を増やします。 H23 の基準値取得後に目標値を設定	—
⑤ 子育て支援や相談体制が整っていると思う市民を増やします。 H23 の基準値取得後に目標値を設定	—
⑥ 青少年の健全育成活動(子ども会等を含む)に参加したことがある 市民を増やします。	○

〈数値目標の達成率の区分〉

○:目標を達成済み ×:目標を達成できない —:判断できない

個別施策の  
実施状況

○進捗率

A又はB評価の施策数(「-」は除く) 7／7

	A	B	C	—	合計
個別施策数	7	0	0	0	7

〈進捗率の評価区分〉

A:工程表どおり実施済み B:概ね工程表どおり C:工程表より遅れている —:未着手

○達成率

A又はB評価の施策数(「-」は除く) 6／6

	A	B	C	—	合計
個別施策数	6	0	0	1	7

〈達成率の評価区分〉

A:目標を達成済み B:順調に推移 C:遅れている —:判断できない

## Ⅱ 個別施策の評価

4-(1)-1	「子育てスマイル(住みいる)アップ補助金」の支給
評価結果	<p>工程表どおり進捗しており、市の自己評価は妥当であると判断する。</p> <p>達成率については、現時点では評価しない。</p>

附帯意見	・補助要件として、一定の収入基準を設けるべき。

個別意見	—
------	---

■自己評価の内容		
個別施策名	進捗率	達成率
4-(1)-1 「子育てスマイル(住まいる)アップ補助金」の支給	A	—

4-(1)-2	休日や夜間・早朝など保育時間の弾力化と学童保育体制の充実
---------	------------------------------

評価結果	目標を達成済みであり、全体の評価としては、市の自己評価が妥当であると判断する。
附帯意見	<p>・施策の重要性は高い。さらに拡充していく方向で進めて欲しい。</p> <p>・トワイライトステイ事業は、重要かつ必要な事業であるが、23年度の実績では利用者一人あたりに係るコストが割高に感じる。事業の周知に伴って、24年度は利用者数が大幅に増えているとのことであるが、今後も積極的にPRして利用人数を増やし、一人あたりの単価を下げていくよう努力してほしい。</p> <p>・事業1年目だったので、この制度を知らない人も多かったと思う。トワイライトステイの存在を知らずに民間の事業所に預けた人もいると思うので、この事業の周知が足りなかったということではないか。</p>

個別意見	—
------	---

■自己評価の内容			
個別施策名		進捗率	達成率
4-(1)-2 休日や夜間・早朝など保育時間の弾力化と学童保育体制の充実		A	A
	(1)トワイライトステイ(夜間養護等)事業	A	A
	(2)放課後児童健全育成事業	A	A

4-(1)-6	親力向上委員会(弘前式しつけマニュアルの策定)の設置
---------	----------------------------

評価結果	市の自己評価は妥当であると判断する。
附帯意見	—

個別意見	・定年退職された方々の力を借りて、子育てをサポートする仕組みを検討すべき。
------	---------------------------------------

■ 自己評価の内容		
個別施策名	進捗率	達成率
4-(1)-6 親力向上委員会(弘前式しつけマニュアルの策定)の設置	A	A

## 約束４－（２）

### 子育てするなら弘前で、を目指します【人づくり】

めざす姿	次代を担う子ども達の才能が育成され、地域の伝統や文化を誇りに思い、継承する人材が育っています。
------	---

#### I 約束部分の評価

評価結果	市の自己評価は妥当であると判断する。
附帯意見	・評価のやり方、特に小中学校の教育に関する評価については、より正確かつ深い分析を行うべき

個別意見	<p>・全国大会や東北大会への参加を増やしていくことを目指すのならば、例えばスポーツの用具の貸与など、保護者の負担を軽減できるような制度を検討すべき。</p> <p>・市内の子ども達の学力向上のためには、勉強しやすい環境、勉強する場をつくっていく必要がある。例えば、駅前のジョッパルや市の東側の地域などに、図書館の分館を設けることなどを検討すべき。</p> <p>・子ども達の学力向上や学習意欲を向上させるという課題と、市民のスポーツや文化活動に対する意欲を高めていくという課題は、質が異なるものであり、これらを一緒にして「やや遅れている」と評価するのはどうか。</p> <p>・部活動をスポーツ少年団に移していく流れで進んでいるのならば、引退したトップレベルの人材をスポーツリーダーとして配置するなど方向も考えるべき。</p> <p>・子どもの学習意欲がどのくらいあるかを探る方法について、「勉強が好き」と答える子供が増えたから学習意欲が向上しているという考え方は、少し短絡的な感じがする。</p>
------	--



自己評価の内容																																					
自己評価	<p>子ども達の才能を伸ばしたり、人材育成に繋がる文化・芸術活動やスポーツ・レクリエーション活動等を行う市民の増加傾向が見られるものの、一方では、最も基礎的な部分である小中学生の学力・学習意欲の向上については伸び悩んでいるところであり、めざす姿に向けては全体的に<u>やや遅れている</u>と考える。</p>																																				
数値目標の達成度	<p>1. 数値目標の達成率(「－」を除く「○」の割合) 8/17 ※うち注目指標の達成率 3/3</p> <p>2. 各数値目標の達成状況一覧</p> <table> <tr> <th>指 標</th><th>達成率 (H23 目標)</th></tr> <tr> <td>① 青森県学習状況調査における通過率順位第3位以内を目指します。 小学5年生(国・社・算・理)</td><td>×</td></tr> <tr> <td>中学2年生(国・社・数・理・英)</td><td>×</td></tr> <tr> <td>② 青森県学習状況調査における学習意欲の向上や学習内容の定着度を示す割合の増加を目指します。 小学5年生「勉強が好きだ」</td><td>×</td></tr> <tr> <td>「勉強は大切だ」</td><td>×</td></tr> <tr> <td>「授業がどの程度分かりますか」</td><td>×</td></tr> <tr> <td>中学2年生「勉強が好きだ」</td><td>○</td></tr> <tr> <td>「勉強は大切だ」</td><td>○</td></tr> <tr> <td>「授業がどの程度分かりますか」</td><td>×</td></tr> <tr> <td>③ 小学校で33人学級を実施している学年の割合 66.6%を目指します。</td><td>－</td></tr> <tr> <td>④ スポーツ全国大会・東北大会参加件数 56 件を目指します。</td><td>○</td></tr> <tr> <td>⑤ 文化活動に関する全国大会・東北大会参加件数 7 件を目指します。</td><td>×</td></tr> <tr> <td>⑥ 市の文化の豊かさに満足している市民を増やします。</td><td>○</td></tr> <tr> <td>⑦ 文化・芸術活動をしている市民を増やします。</td><td>○</td></tr> <tr> <td>⑧ スポーツ、レクリエーションをしている市民(月 1 回以上)を増やします。</td><td>○</td></tr> <tr> <td>⑨ スポーツ施設の利用者数 1,050,000 人を目指します。</td><td>×</td></tr> <tr> <td>⑩ レクリエーション施設の利用者数 91,000 人を目指します。</td><td>×</td></tr> <tr> <td>⑪ 大学等を利活用する市民の数を増やします。</td><td>○</td></tr> </table>	指 標	達成率 (H23 目標)	① 青森県学習状況調査における通過率順位第3位以内を目指します。 小学5年生(国・社・算・理)	×	中学2年生(国・社・数・理・英)	×	② 青森県学習状況調査における学習意欲の向上や学習内容の定着度を示す割合の増加を目指します。 小学5年生「勉強が好きだ」	×	「勉強は大切だ」	×	「授業がどの程度分かりますか」	×	中学2年生「勉強が好きだ」	○	「勉強は大切だ」	○	「授業がどの程度分かりますか」	×	③ 小学校で33人学級を実施している学年の割合 66.6%を目指します。	－	④ スポーツ全国大会・東北大会参加件数 56 件を目指します。	○	⑤ 文化活動に関する全国大会・東北大会参加件数 7 件を目指します。	×	⑥ 市の文化の豊かさに満足している市民を増やします。	○	⑦ 文化・芸術活動をしている市民を増やします。	○	⑧ スポーツ、レクリエーションをしている市民(月 1 回以上)を増やします。	○	⑨ スポーツ施設の利用者数 1,050,000 人を目指します。	×	⑩ レクリエーション施設の利用者数 91,000 人を目指します。	×	⑪ 大学等を利活用する市民の数を増やします。	○
指 標	達成率 (H23 目標)																																				
① 青森県学習状況調査における通過率順位第3位以内を目指します。 小学5年生(国・社・算・理)	×																																				
中学2年生(国・社・数・理・英)	×																																				
② 青森県学習状況調査における学習意欲の向上や学習内容の定着度を示す割合の増加を目指します。 小学5年生「勉強が好きだ」	×																																				
「勉強は大切だ」	×																																				
「授業がどの程度分かりますか」	×																																				
中学2年生「勉強が好きだ」	○																																				
「勉強は大切だ」	○																																				
「授業がどの程度分かりますか」	×																																				
③ 小学校で33人学級を実施している学年の割合 66.6%を目指します。	－																																				
④ スポーツ全国大会・東北大会参加件数 56 件を目指します。	○																																				
⑤ 文化活動に関する全国大会・東北大会参加件数 7 件を目指します。	×																																				
⑥ 市の文化の豊かさに満足している市民を増やします。	○																																				
⑦ 文化・芸術活動をしている市民を増やします。	○																																				
⑧ スポーツ、レクリエーションをしている市民(月 1 回以上)を増やします。	○																																				
⑨ スポーツ施設の利用者数 1,050,000 人を目指します。	×																																				
⑩ レクリエーション施設の利用者数 91,000 人を目指します。	×																																				
⑪ 大学等を利活用する市民の数を増やします。	○																																				

	<div>⑫ 国外交流事業の参加者数 580 人を目指します。</div> <div>○</div> <div>&lt;数値目標の達成率の区分&gt; ○:目標を達成済み ×:目標を達成できない ー:判断できない</div>																								
個別施策の実施状況	<div>○進捗率</div> <div>A又はB評価の施策数(「ー」は除く) 12/14</div> <table><tr><td></td><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>ー</td><td>合計</td></tr><tr><td>個別施策数</td><td>10</td><td>2</td><td>2</td><td>0</td><td>14</td></tr></table> <div>&lt;進捗率の評価区分&gt; A:工程表どおり実施済み B:概ね工程表どおり C:工程表より遅れている ー:未着手</div> <div>○達成率</div> <div>A又はB評価の施策数(「ー」は除く) 6/9</div> <table><tr><td></td><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>ー</td><td>合計</td></tr><tr><td>個別施策数</td><td>4</td><td>2</td><td>3</td><td>5</td><td>14</td></tr></table> <div>&lt;達成率の評価区分&gt; A:目標を達成済み B:順調に推移 C:遅れている ー:判断できない</div>		A	B	C	ー	合計	個別施策数	10	2	2	0	14		A	B	C	ー	合計	個別施策数	4	2	3	5	14
	A	B	C	ー	合計																				
個別施策数	10	2	2	0	14																				
	A	B	C	ー	合計																				
個別施策数	4	2	3	5	14																				

## Ⅱ 個別施策の評価

4-(2)-4	海外の自治体との人事交流やホームステイによる弘前の国際人育成事業
---------	----------------------------------

評価結果	市の自己評価は妥当であると判断する。
附帯意見	・研修を行って得た成果が、結果として、その専門性を高める方向に活かされないという可能性もあり得るので、身につけた専門的な知識をどのように高めるかという点で、派遣したことが無駄にならないような方向で努めて欲しい。

個別意見	ー
------	---

■ 自己評価の内容			
個別施策名		進捗率	達成率
4-(2)-4 海外の自治体との人事交流やホームステイによる弘前の国際人育成事業		A	A
	(1)市職員海外派遣事業	A	A
	(2)市職員国際化育成事業	A	A
	(3)国際人育成支援事業	A	—

4-(2)-6	「弘前マイスター」による出前授業
---------	------------------

評価結果	<p>工程表どおり進捗しており、市の自己評価は妥当であると判断する。</p> <p>達成率については、現時点では評価しない。</p>
附帯意見	—

個別意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業を選ぶ範囲が昔に比べて多岐にわたっている分、ロールモデル(将来になりたい自分の姿をイメージするためのお手本になるような人)が身近にいと、とても良いキャリア教育になると思うので、どんどん進めるべき。</li> <li>・キャリア教育との整合性をしっかり図りながら取り組むことが必要。</li> <li>・県等で実施している事業等との連携を図りつつ、弘前マイスターとしての良さを出しながら進めるべき。</li> </ul>
------	---

■ 自己評価の内容		
個別施策名		進捗率
4-(2)-6 「弘前マイスター」による出前授業		A
		—

4-(2)-12	「目指せ日本一・世界一」弘前の才能育成アクションプログラム策定
----------	---------------------------------

評価結果	市の自己評価は妥当であると判断する。
附帯意見	—

個別意見	—
------	---

■ 自己評価の内容		
個別施策名	進捗率	達成率
4-(2)-12 「目指せ日本一・世界一」弘前の才能育成アクションプログラム策定	C	C

## 約束5 命と暮らしを守ります

めざす姿	“赤ちゃんから高齢者まで”の命と暮らしの安心・安全づくりが充実し、市民が健康的な生活を送っています。
------	--

### I 約束部分の評価

評価結果	市の自己評価は妥当であると判断する。
附帯意見	・がん検診など検診受診率の低い原因をもう少し深く考えるべきである。とりわけ女性が受診しやすい環境を整えてほしい。

個別意見	—
------	---

自己評価の内容																			
自己評価	自殺者数の減少や母子保健福祉への関心は高まる傾向が見られますが、各種がん検診受診率及び健康だと思ふ市民の数値は伸びているものの目標を達成することができなかったため、めざす姿に向けては <u>遅れている</u> と考える。																		
数値目標の達成度	<p>1. 数値目標の達成率(「—」を除く「○」の割合) 5/8 ※うち注目指標の達成率 3/3</p> <p>2. 各数値目標の達成状況一覧</p> <table> <tr> <th>指 標</th><th>達成率 (H23 目標)</th></tr> <tr> <td>① 自殺者数 48 人以下を目指します。</td><td>○</td></tr> <tr> <td>② 各種がん検診受診率 5%アップ(H25、対 H21 実績比)を目指します。</td><td>×</td></tr> <tr> <td>③ 自立して生活できる高齢者の割合(要介護認定を受けていない高齢者の割合)79.2%を維持します。</td><td>×</td></tr> <tr> <td>④ 一般の民間企業における雇用障がい者数の割合 1.83%を目指します。</td><td>○</td></tr> <tr> <td>⑤ 育児に自信がもてない人の割合 6.0%を目指します。</td><td>○</td></tr> <tr> <td>⑥ 健康だと思ふ市民を増やします。</td><td>×</td></tr> <tr> <td>⑦ 生きがいを持っている 60 歳以上の市民を増やします。</td><td>○</td></tr> <tr> <td>⑧ 生活に満足している障がい者を増やします。</td><td>○</td></tr> </table>	指 標	達成率 (H23 目標)	① 自殺者数 48 人以下を目指します。	○	② 各種がん検診受診率 5%アップ(H25、対 H21 実績比)を目指します。	×	③ 自立して生活できる高齢者の割合(要介護認定を受けていない高齢者の割合)79.2%を維持します。	×	④ 一般の民間企業における雇用障がい者数の割合 1.83%を目指します。	○	⑤ 育児に自信がもてない人の割合 6.0%を目指します。	○	⑥ 健康だと思ふ市民を増やします。	×	⑦ 生きがいを持っている 60 歳以上の市民を増やします。	○	⑧ 生活に満足している障がい者を増やします。	○
指 標	達成率 (H23 目標)																		
① 自殺者数 48 人以下を目指します。	○																		
② 各種がん検診受診率 5%アップ(H25、対 H21 実績比)を目指します。	×																		
③ 自立して生活できる高齢者の割合(要介護認定を受けていない高齢者の割合)79.2%を維持します。	×																		
④ 一般の民間企業における雇用障がい者数の割合 1.83%を目指します。	○																		
⑤ 育児に自信がもてない人の割合 6.0%を目指します。	○																		
⑥ 健康だと思ふ市民を増やします。	×																		
⑦ 生きがいを持っている 60 歳以上の市民を増やします。	○																		
⑧ 生活に満足している障がい者を増やします。	○																		

	<div>⑨ 子育て支援や相談体制が整っていると思う市民を増やします。 H23 の基準値取得後に目標値を設定</div> <div>—</div> <div>〈数値目標の達成率の区分〉 ○:目標を達成済み    ×:目標を達成できない    ー:判断できない</div>																								
個別施策の実施状況	<div>○進捗率</div> <div>A又はB評価の施策数(「-」は除く)    10/10</div> <table><tr><td></td><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>—</td><td>合計</td></tr><tr><td>個別施策数</td><td>10</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>10</td></tr></table> <div>〈進捗率の評価区分〉 A:工程表どおり実施済み    B:概ね工程表どおり    C:工程表より遅れている    ー:未着手</div> <div>○達成率</div> <div>A又はB評価の施策数(「-」は除く)    7/8</div> <table><tr><td></td><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>—</td><td>合計</td></tr><tr><td>個別施策数</td><td>5</td><td>2</td><td>1</td><td>2</td><td>10</td></tr></table> <div>〈達成率の評価区分〉 A:目標を達成済み    B:順調に推移    C:遅れている    ー:判断できない</div>		A	B	C	—	合計	個別施策数	10	0	0	0	10		A	B	C	—	合計	個別施策数	5	2	1	2	10
	A	B	C	—	合計																				
個別施策数	10	0	0	0	10																				
	A	B	C	—	合計																				
個別施策数	5	2	1	2	10																				

## Ⅱ 個別施策の評価

5-2	高齢者の健康診断受診率向上と介護予防事業への参加促進
-----	----------------------------

評価結果	市の自己評価は妥当であると判断する。
附帯意見	・特定健診事業の目標が設定されていないため、進捗しても達成率がみえないということは望ましくない。達成率を測るための目標指標の設定を工夫するべき。

個別意見	—
------	---

■自己評価の内容		
個別施策名	進捗率	達成率
5-2 高齢者の健康診断受診率向上と介護予防事業への参加促進	A	C

結核健診	—	—
後期高齢者健診受託事業	A	C
特定健康診査事業	A	—
二次予防事業の対象者把握事業	A	A
通所型介護予防事業	A	C
訪問型介護予防事業	A	C
介護予防健康教育	A	A
(仮称)健幸ポイント制度推進事業	A	—

5-5	自殺予防など心の健康づくり・命の尊さ教育を実施
-----	-------------------------

評価結果	市の自己評価は妥当であると判断する。
附帯意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自殺防止にあたり、借金対策にも力を入れていくべきと考える。</li> <li>・市職員がゲートキーパーとなるための研修等は、若手職員だけを対象とするのではなく、より広く積極的に進めるべき。</li> </ul>

個別意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多重債務者の借金問題も視野に入れなくては、自殺の歯止めがかけられないと思うので、他地域で実施されている自治体による多重債務解決の支援事例などを調査するべき。</li> <li>・子ども達の声に耳を傾けるチャイルドライン(子ども専用電話)によって、全国の多くの子ども達が救われており、県内でも行われているので、ぜひ連携していくべき。</li> <li>・相談窓口をしっかり作り、例えば、市職員又は市が依頼した弁護士などが自己破産のアドバイスや手続きを代行するような仕組みづくりを検討してはどうか。</li> <li>・大人でも相談できる窓口があるということを、市民に広く知らせることも大切なことだ。</li> </ul>
------	---

■ 自己評価の内容			
個別施策名		進捗率	達成率
5-5	自殺予防など心の健康づくり・命の尊さ教育を実施	A	A
	(1)心の健康づくり事業	A	A
	(2)命の尊さ教育	A	A



## 約束 6

### 津軽地域の中核都市として、近隣市町村との連携強化を図ります。

めざす姿	弘前市が津軽地域の中核的な役割を担い、近隣市町村と医療、公共交通、観光などの分野で互いに連携・協力することにより、地域全体の活性化が図られます。
------	--

#### I 約束部分の評価

評価結果	市の自己評価は妥当であると判断する。
附帯意見	・中心市の病院等を活用するためには、地域公共交通体系の構築が大事であり、公共交通と医療の指標は密接に関わるので、今後も積極的に進めるべき。

個別意見	・圏域内での医師確保に関する指標が、アクションプラン2012に追加されたことは評価する。
------	--

自己評価の内容													
自己評価	弘前市が津軽地域の中核的な役割を担い、近隣市町村と連携・協力する体制づくりが整備されるなど、目標達成に向けて取り組んでいるが、 <u>十分な成果が得られていない</u> と考える。												
数値目標の達成度	<p>1. 数値目標の達成率(「－」を除く「○」の割合) 3/5 ※うち注目指標の達成率 1/2</p> <p>2. 各数値目標の達成状況一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指 標</th><th>達成率 (H23 目標)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 平成 23 年 3 月までに、中心市宣言することを目指します。</td><td>○</td></tr> <tr> <td>② 平成 23 年 10 月までに、定住自立圏形成協定の締結を目指します。</td><td>○</td></tr> <tr> <td>③ 平成 24 年 2 月までに、定住自立圏共生ビジョンの策定を目指します。</td><td>○</td></tr> <tr> <td>④ 定住自立圏構想連携施策数 14 件を目指します。</td><td>×</td></tr> <tr> <td>⑤ 定住自立圏圏域市町村をつなぐ広域バス路線及び弘南鉄道の利用者数 3,130 千人</td><td>×</td></tr> </tbody> </table>	指 標	達成率 (H23 目標)	① 平成 23 年 3 月までに、中心市宣言することを目指します。	○	② 平成 23 年 10 月までに、定住自立圏形成協定の締結を目指します。	○	③ 平成 24 年 2 月までに、定住自立圏共生ビジョンの策定を目指します。	○	④ 定住自立圏構想連携施策数 14 件を目指します。	×	⑤ 定住自立圏圏域市町村をつなぐ広域バス路線及び弘南鉄道の利用者数 3,130 千人	×
指 標	達成率 (H23 目標)												
① 平成 23 年 3 月までに、中心市宣言することを目指します。	○												
② 平成 23 年 10 月までに、定住自立圏形成協定の締結を目指します。	○												
③ 平成 24 年 2 月までに、定住自立圏共生ビジョンの策定を目指します。	○												
④ 定住自立圏構想連携施策数 14 件を目指します。	×												
⑤ 定住自立圏圏域市町村をつなぐ広域バス路線及び弘南鉄道の利用者数 3,130 千人	×												

	<table><tr><td>⑥</td><td>定住自立圏圏域の観光客入込数 15,717 千人を目指します。 (39.6%増)</td><td>—</td></tr><tr><td>⑦</td><td>(H22～)3市町村の合併をしてよかったと思う市民の割合 H23 の基準値取得後に目標値を設定</td><td>—</td></tr></table> <p>＜数値目標の達成率の区分＞ ○:目標を達成済み    ×:目標を達成できない    ー:判断できない</p>	⑥	定住自立圏圏域の観光客入込数 15,717 千人を目指します。 (39.6%増)	—	⑦	(H22～)3市町村の合併をしてよかったと思う市民の割合 H23 の基準値取得後に目標値を設定	—																		
⑥	定住自立圏圏域の観光客入込数 15,717 千人を目指します。 (39.6%増)	—																							
⑦	(H22～)3市町村の合併をしてよかったと思う市民の割合 H23 の基準値取得後に目標値を設定	—																							
個別施策の 実施状況	<p>○進捗率</p> <p>A又はB評価の施策数(「ー」は除く)    3／3</p> <table><tr><td></td><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>ー</td><td>合計</td></tr><tr><td>個別施策数</td><td>3</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>3</td></tr></table> <p>＜進捗率の評価区分＞ A:工程表どおり実施済み    B:概ね工程表どおり    C:工程表より遅れている    ー:未着手</p> <p>○達成率</p> <p>A又はB評価の施策数(「ー」は除く)    2／3</p> <table><tr><td></td><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>ー</td><td>合計</td></tr><tr><td>個別施策数</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>3</td></tr></table> <p>＜達成率の評価区分＞ A:目標を達成済み    B:順調に推移    C:遅れている    ー:判断できない</p>		A	B	C	ー	合計	個別施策数	3	0	0	0	3		A	B	C	ー	合計	個別施策数	1	1	1	0	3
	A	B	C	ー	合計																				
個別施策数	3	0	0	0	3																				
	A	B	C	ー	合計																				
個別施策数	1	1	1	0	3																				

## Ⅱ 個別施策の評価

6-1	定住自立圏構想の推進(中心市の宣言)
評価結果	市の自己評価は妥当であると判断する。
附帯意見	—
個別意見	—

■ 自己評価の内容			
個別施策名		進捗率	達成率
6-1	定住自立圏構想の推進(中心市の宣言)	A	A
	定住自立圏共生ビジョン策定事業	A	A
	定住自立圏共生ビジョン推進事業	A	—

6-2	(再)北東北の中核都市として、民間企業や公的団体の弘前市への着実な立地を推進
-----	--

評価結果	市の自己評価は妥当であると判断する。
附帯意見	—

個別意見	・地元の一企業人の立場からは、企業誘致の必要性に疑問を感じることもある。雇用の創出や地元企業の技術向上という趣旨は理解できるものの、本社機能が置かれるわけではなく、結果的に利益を中央に吸い上げられることも危惧される。
------	--

■自己評価の内容		
個別施策名	進捗率	達成率
6-2 (再)北東北の中核都市として、民間企業や公的団体の弘前市への着実な立地を推進	A	C

6-3	市町村合併の効果の最大化と一体感の醸成を推進(合併効果促進事業)
-----	----------------------------------

評価結果	市の自己評価は妥当であると判断する。
附帯意見	<p>・「合併効果の最大化」については、合併によってどれだけメリットが生じて市民のためになったかということ、合併しなかった場合と比較して初めて判断し得るもの。この比較ができるよう、合併効果を市民に分かりやすく示すことが必要。</p> <p>・地域住民の実感として、自己評価で示される達成率には程遠いと感じるような事業もある。住民の理解がなければ先に進まないの、状況などをしっかり説明しながら事業の進捗を図るべき。</p>

個別意見	—
------	---

■ 自己評価の内容		
個別施策名	進捗率	達成率
6-3 市町村合併の効果の最大化と一体感の醸成を推進(合併効果促進事業)	A	B

## 約束 7 市職員のパワーを引き出し、市役所の仕事力を高めます

めざす姿	前向きに取り組む職員の育成により、市民ニーズの的確な把握やサービスの向上が図られ効率的・効果的な行政運営が実現しています。
------	---

### I 約束部分の評価

評価結果	「十分な成果が得られていない」という自己評価は、否定的な面が強すぎる評価だと思われる。厳しければ正しい評価が得られるとは必ずしも言えない。必要なのは正確な評価である。
附帯意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市職員のワーク・ライフ・バランスを考えながら、市職員全体の意識の向上を図っていくことが望ましい。</li> <li>・一生懸命やっている職員と、そうではない職員との意識等の差を、どの様に認識し、どのように埋めていくかを、しっかりと検討し対処していくべき。</li> <li>・「職員の仕事ぶりの市民満足度」を市民評価アンケートで評価しているが、悪いところを正していくということは確かに大事だが、一方で良いところに焦点を当てて、その点を伸ばしていくことも大事だと考える。これは職員のマインドアップにもつながることである。</li> </ul>

個別意見	—
------	---

自己評価の内容	
自己評価	エリア担当制度の事業化をはじめ、職員の育成に対して新規事業や積極的な研修への派遣など、目標達成に向けて取り組んでいるが、 <u>十分な成果は得られていない</u> と考える。
数値目標の達成度	1. 数値目標の達成率(「—」を除く「○」の割合) 6/9 ※うち注目指標の達成率 2/3  2. 各数値目標の達成状況一覧

	<table><tr><th>指 標</th><th>達成率 (H23 目標)</th></tr><tr><td>① 職員の仕事ぶりの市民満足度を高めます。</td><td>×</td></tr><tr><td>② ボランティア・地域活動に参加している職員の割合 65.0%を目指します。</td><td>×</td></tr><tr><td>③ 各種研修受講者数 750 人を目指します。</td><td>○</td></tr><tr><td>④ 窓口での対応に満足している市民を増やします。</td><td>○</td></tr><tr><td>⑤ 窓口での手続き時間に満足している市民を増やします。</td><td>×</td></tr><tr><td>⑥ 職員提案が施策に反映された件数 9 件を目指します。</td><td>○</td></tr><tr><td>⑦ 民間活用による削減効果額 181,190 千円を目指します。</td><td>○</td></tr><tr><td>⑧ 財政調整基金は、計画期間を通じて 20 億円を維持します</td><td>○</td></tr><tr><td>⑨ 単年度の市債発行額のうち地方交付税措置のないものの割合を減らします。</td><td>○</td></tr></table> <p>＜数値目標の達成率の区分＞ ○:目標を達成済み ×:目標を達成できない ー:判断できない</p>	指 標	達成率 (H23 目標)	① 職員の仕事ぶりの市民満足度を高めます。	×	② ボランティア・地域活動に参加している職員の割合 65.0%を目指します。	×	③ 各種研修受講者数 750 人を目指します。	○	④ 窓口での対応に満足している市民を増やします。	○	⑤ 窓口での手続き時間に満足している市民を増やします。	×	⑥ 職員提案が施策に反映された件数 9 件を目指します。	○	⑦ 民間活用による削減効果額 181,190 千円を目指します。	○	⑧ 財政調整基金は、計画期間を通じて 20 億円を維持します	○	⑨ 単年度の市債発行額のうち地方交付税措置のないものの割合を減らします。	○				
指 標	達成率 (H23 目標)																								
① 職員の仕事ぶりの市民満足度を高めます。	×																								
② ボランティア・地域活動に参加している職員の割合 65.0%を目指します。	×																								
③ 各種研修受講者数 750 人を目指します。	○																								
④ 窓口での対応に満足している市民を増やします。	○																								
⑤ 窓口での手続き時間に満足している市民を増やします。	×																								
⑥ 職員提案が施策に反映された件数 9 件を目指します。	○																								
⑦ 民間活用による削減効果額 181,190 千円を目指します。	○																								
⑧ 財政調整基金は、計画期間を通じて 20 億円を維持します	○																								
⑨ 単年度の市債発行額のうち地方交付税措置のないものの割合を減らします。	○																								
個別施策の実施状況	<p>○進捗率</p> <p>A又はB評価の施策数(「-」は除く) 4/4</p> <table><tr><th></th><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>ー</th><th>合計</th></tr><tr><td>個別施策数</td><td>4</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>4</td></tr></table> <p>＜進捗率の評価区分＞ A:工程表どおり実施済み B:概ね工程表どおり C:工程表より遅れている ー:未着手</p> <p>○達成率</p> <p>A又はB評価の施策数(「-」は除く) 3/4</p> <table><tr><th></th><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>ー</th><th>合計</th></tr><tr><td>個別施策数</td><td>0</td><td>3</td><td>1</td><td>0</td><td>4</td></tr></table> <p>＜達成率の評価区分＞ A:目標を達成済み B:順調に推移 C:遅れている ー:判断できない</p>		A	B	C	ー	合計	個別施策数	4	0	0	0	4		A	B	C	ー	合計	個別施策数	0	3	1	0	4
	A	B	C	ー	合計																				
個別施策数	4	0	0	0	4																				
	A	B	C	ー	合計																				
個別施策数	0	3	1	0	4																				

## Ⅱ 個別施策の評価

7-1	民間からの中堅・幹部職員の採用(任期付など多様な形態で)
-----	------------------------------

評価結果	市の自己評価は妥当であると判断する。
附帯意見	—

個別意見	・インバウンド対策のために、誘客のターゲットとなる国と弘前の両者の懸け橋となるような外国人を採用してはどうか。
------	---

■ 自己評価の内容		
個別施策名	進捗率	達成率
7-1 民間からの中堅・幹部職員の採用（任期付など多様な形態で）	A	C

<b>7-3</b>	エリア担当制度の検討など職員の地域活動への参加促進
------------	---------------------------

評価結果	市の自己評価は妥当であると判断する。 市の業務の一つの目玉事業ともいえるので、進めて欲しい。
附帯意見	—

個別意見	・エリア担当システムを活用して、まちづくり1%システムの支援はできないか。 地域ニーズを住民とエリア担当職員が共有し、まちづくり1%システムを活用して地域課題を解決していければ良いと考える。
------	--

■ 自己評価の内容		
個別施策名	進捗率	達成率
7-3 エリア担当制度の検討など職員の地域活動への参加促進	A	B

<b>7-4</b>	窓口改革運動の実施
------------	-----------

評価結果	市の自己評価は妥当であると判断する。
------	--------------------

附帯意見

・市民の立場からは、窓口立つ職員の専門性がきちんと確保されている状態が望まれるので、各担当部署の職員の専門性を高める方向で一層の努力を期待する。

・市民評価アンケートからは市職員の接客態度について厳しい意見が寄せられている。当評価委員からは改善されている旨の意見も出されたが、勤務態度については一層の改善のための具体的方策が求められている。

個別意見

—

■自己評価の内容

個別施策名	進捗率	達成率
7-4 窓口改革運動の実施	A	B



### 3 市民評価を終えて

市政の重要施策について、アクションプランとして市民に提示し、担当部局による自己評価結果をわれわれ市民評価会議が第三者として評価をするという方式は、市政を透明なものにし、予算の有効な執行を担保するために必要で適切なものである。今回の市民評価会議による評価が、2回目の第三者評価であったが、この市民評価をベースにして、市役所の各部局で改善の努力を重ね、市民の目線に沿った効率的な行政運営がなされるよう、心からお願いしたい。

今後、この活動をさらに充実したものにするには、今回のような、市役所の担当部局へのヒアリングを中心とした市民評価だけではなく、さらに、施策の対象となっている市民からのヒアリングが本来は必要なのではないかと思われる。この点、市民評価アンケートの結果を評価の要素として一層活用することや、今回の評価では実施できなかったが、市長の行なっている、車座ミーティング・車座ランチなどで出された意見・要望を評価に利用することも考えられる。さらには、関係諸団体のヒアリングなども実施できれば、いっそう充実した市民による第三者評価になるだろう。

また、農業関係の委員の出席がままならなかったために、農業政策の評価が十分ならず、農村地域での状況について情報が乏しくなってしまったこともまことに残念であった。農業政策の重要性を考えると、農業関係の施策の現場について、十分な情報を手に入れることができるよう、何らかの手立てが必要である。

今回の市民評価で明らかになった最大の問題点は、市の施策によって、所期の目的がどれほど実現したのかを示す成果指標の設定が十分でなかったことである。成果指標を数値化し、成果が上がったのか否かを明確にできるよう、市の自己評価のあり方にいっそうの工夫が必要だと思われる。

最後に、市民評価活動で、大切なことは、なるべく多くの市民にこの活動に参加してもらうことであろう。全国を見ると、一般市民の参加を得て、大規模な市民評価活動を実施している市もみうけられる。市民評価アンケートの結果や市役所の自己評価報告書がすでに公表され、この市民評価報告書も公表されるので、ぜひ多くの市民の皆さんが市政に関心を持ち、ご意見や情報を市民評価会議の事務局まで寄せていただき、広い意味の市民評価活動に参加していただけるよう、お願いしたい。

弘前市市民評価会議 委員長 村松 恵二

## 弘前市市民評価会議設置要綱

(設置)

**第1条** 弘前市アクションプランの評価に関する事項について、第三者評価等を実施するため、弘前市市民評価会議（以下「評価会議」という。）を設置する。

(所掌事務)

**第2条** 評価会議の所掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 7つの約束の達成状況の評価に関すること。
- (2) 個別施策の達成状況の評価に関すること。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、評価及び提言に関すること。

(組織)

**第3条** 評価会議は、委員8人以内をもって組織する。

**2** 委員は、次に掲げる者のうちから、市長が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 各種団体代表
- (3) 市民
- (4) 前3号に掲げる者のほか、市長が適当であると認める者

**3** 前項第3号に掲げる者の選任は、公募の方法によるものとする。

(委員の任期)

**第4条** 委員の任期は、委嘱の日から翌年度の末日までとする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

**2** 委員は、再任されることができる。

(委員長及び副委員長)

**第5条** 評価会議に委員長及び副委員長を置く。

**2** 委員長及び副委員長は、委員の互選によりこれを定める。

**3** 委員長は、評価会議の会務を総理し、評価会議を代表する。

**4** 委員長は、評価会議の議長となる。

**5** 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

**第6条** 評価会議の会議は、委員長が招集する。

- 2 評価会議の会議は、委員の過半数の出席がなければ、会議を開くことができない。
- 3 評価会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。
- 4 委員長は、必要があると認めるときは、会議に関係者の出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

(部会)

**第7条** 第2条各号に掲げる所掌事項について、必要な調査、研究等をさせるため、評価会議に部会を置くことができる。

- 2 部会は、委員長が委員のうちから指名するものをもって組織する。
- 3 各部会に部会長を置き、それぞれ委員長又は副委員長をもって充てる。
- 4 前条の規定は、部会の会議について準用する。この場合において、同条中「評価会議」とあるのは「部会」と、「委員長」とあるのは「部会長」と読み替えるものとする。

(会議の公開)

**第8条** 評価会議及び部会の会議は、原則として公開とする。

(庶務)

**第9条** 評価会議の庶務は、企画部企画課において処理する。

(雑則)

**第10条** この要綱に定めるもののほか、評価会議の運営に関し必要な事項は、委員長が定める。

附 則

- 1 この要綱は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 第6条の規定に関わらず、初回の評価会議の会議は、市長が招集する。

## 平成24年度弘前市市民評価会議委員名簿

No.	役職	氏 名	所属機関等
1	委員長	村松 恵二	弘前大学人文学部教授
2	副委員長	清藤 崇	弘前商工会議所青年部会長
3	委員	サワダ ハンナ・ジョイ	弘前大学国際交流センター准教授
4	委員	田村 えり子	特定非営利活動法人 北のまほろばグリーン・ツーリズム 支援ネットワーク理事長
5	委員	林崎 孝人	相馬村農業協同組合青年部長
6	委員	清野 眞由美	特定非営利活動法人 弘前こどもコミュニティ・ピーぷる 代表理事
7	委員	西澤 肇	公募委員
8	委員	竹内 博之	公募委員

